

「主体的・対話的」な学び～今どきの授業～

③グループ代表の発表

①自分の考えをペアと交流

④全体での確認

②グループでの話し合い

業が今年度から「主体的・対話的」な学びを推進している。授業の目標として、児童が「主体的・対話的」な学びを通して、知識・技能、思考力・判断力・問題解決力、学びに向かう力・人間性等を育成することを目指す。授業の過程では、児童が「主体的・対話的」な学びを通して、知識・技能、思考力・判断力・問題解決力、学びに向かう力・人間性等を育成することを目指す。授業の過程では、児童が「主体的・対話的」な学びを通して、知識・技能、思考力・判断力・問題解決力、学びに向かう力・人間性等を育成することを目指す。

百名っ子

〈学校教育目標〉
目標を持ち自ら学ぶ子
心豊かで決まりを守る子
健康でたくましい子

令和2年7月20日
第8号
校長

校長室から

「宿題やった?」「やったよ。」「じゃーお風呂入って。」「入るってばー。」これは、恥ずかしながら我が家で日常的に行われたやり取りです。こんな一発問答もよくありました。「明日の準備終わったの?」「まだー。」ここにあるのは、事務的な単なる確認。「会話」には程遠いものです。「教育学」「社会言語学」の研究では、まだ書き言葉が分からない幼児であっても話し言葉の意味を理解し、幼児期の話し言葉、家庭での会話の度合いが知的能力の発達に影響を与えていることが知られています。また、家庭での会話の特徴として「制限コード」(論理的でない発話)と「精緻的コード」(知識・情報内容を精密に伝える論理的な発話)との違いによって、その後の言語能力(思考力・表現力等)に差を生じさせることが分かっているそうです。「深い学びの科学」北尾倫彦)うすうす分かってはいましたが、仕事の疲れもあり、ある事柄を対象に親子で会話を行うことが我が家ではあまりなかったことをものすごく後悔しています(許せ我が子たち)テレビ番組でもいいです。漫画のこと。ヒット曲のことでもいいと思います。「どんなところが」、「どんなふうに面白いのか」親子で日常的に会話をするをお勧めします。

新しい特別支援員
十三日(月)から、特別支援教育支援員として先生が仲間入りしました。学校は人手が多くなればなるほど助かる職場です。保護の皆さま、宜しくお願いします。

外国語活動・外国語(英語)

新学習指導要領の目玉は「外国語活動」(一・四年生)外国語(五・六年生)でもあります。先日、三年生の外国語活動を拝見しました。ここでもペアで英語でインタビューする場面がありました。インタビューの質問は「How many do you have?」にあたる部分は文具用品。みんな上手に質問したり、英語で答えたりしていました。この内容は、中学一年二学期以降に習う内容だと思えますが、三年生は、ゲーム感覚で楽しそうに話していました。また、英語の歌に合わせたダンスも楽しそうに踊っていました。三年生でこの内容なので、五・六年生の内容はもっと高度なものになると思います。



「百名んじーイラストコンテスト」
児童会主催で「百名んじーイラストコンテスト」が開催中です。全校児童を対象にイラストを募集し、全児童で審査までするこの取り組み。一学期終業式の日に、結果発表の予定です。児童会が企画運営し、その呼びかけに子ども達が応える。「企画・運営力」「遂行力」「協働性」「参画意識」など、これからの時代に必要な資質・能力に通じるものがこのイベントにはあると思います。